

第 2 回：村岡城 歴史と史跡（武士の歴史）

村岡城址をめぐる^{もののふ}武士の歴史

村岡には武士に関係した史跡や地名が沢山あります。村岡を最初に開発したのは村岡五郎^{たいらのもし}平良文と言われます。

藤沢の「村岡」以外に、埼玉や茨城でも「村岡」という所に住んだと云われますが、桓武天皇四代の孫で平氏を名乗った高望王の五番目の男です。子孫が関東に散らばった、三浦氏や鎌倉氏・大庭氏・秩父氏・畠山氏・渋谷氏などです。

後の平清盛や鎌倉北条氏や後北条氏などは、高望王の長男の国香から出ています。

もっとも、系図には色々ありますが、ここでは地元で伝承されている系図に従います。

村岡城址の所はもと「上ノ^{かみ}屋^{やしき}舗」と云われたところで、良文の館の跡とされます。

良文は、村岡の宮前御霊神社や川名御霊神社、また渡内の日枝神社などを勧請して、此の地を開板とされます。

村岡城址は昭和 41 年から 10 年をかけた村岡東部の区画整理で整備されるところで、標高は 38m、約 2 千坪の運動場もある景色の良い公園ですが、しかし昔の面影は全く無くなりました。高さは 15m 以上も削られ、開発前は小さな丘が三つあり、その間に開けた平らな畑が屋敷跡と云われ、その中心の小高い所に「村岡城址」と書かれた碑がありました。今は公園に移されている昭和 7 年の碑です。題字を「元帥東郷平八郎」が揮毫しています。文章などは「東郷吉太郎」が書いていますが平八郎の甥に当たる軍人です。城址は昭和 6 年に県の史蹟に指定されその記念と云うことです。東郷氏は鎌倉時代綾瀬の渋谷氏から出て鹿児島に移住した、やはり良文の一族です。またこの年には、綾瀬の早川城跡にも東郷元帥自筆の碑が建てられ、盛大なお祝いが行われています。元帥は江の島神社にも大正 10 年の碑があり、川名御霊神社には吉太郎が揮毫していますが、これらは地元高座郡のご縁と云うことのようにです。

屋敷跡の一角に、「三日月の井戸」という井戸がありました。後に鎌倉や大庭御厨を開発した鎌倉権五郎景政が産湯を使ったと云います。良文より 150 年くらい後の子孫です。16 才で、源義家が奥州清原氏を平定した「後三年の役」に参戦しましたが、敵の矢を右目に受けながら相手を倒し、陣に戻ってひっくり返り、同僚が足で顔を抑えて矢を抜こうとしたところ、いきなり下から刀を突き上げ、土足で顔を踏まれるほど不名誉はないと、やり直しをさせた話で有名です。歌舞伎の「暫く」や、浮世絵にもなっています。景政は宮前の御霊神社の祭神にされ、境内には矢を祀った矢竹稻荷があります。鎌倉などに御霊神社が沢山ありますが、殆どの祭神とされます。

御霊神社の後ろの山を旗立山^{はなたち}といいますが、このとき源義家が白旗を立てて軍勢を集めたところと云います。

御霊神社の北側には今も、鎌倉古道の雰囲気が残っているところがあります。その道筋の神戸製鋼の中に兜松と云う所があって、景政が戦勝記念に兜を埋めたところと言われます。かつては東海道線からも眺めることが出来ましたが、昭和 22 年の暴風で倒れてしまったと云うことです。

渡内の二伝寺の裏山に、良文公・二代目とされる忠光公、三代目の忠通公の墓と言われる塚が未通並んでいます。

良文から 5 代の目の景政までがこの辺りに住み、固館^{こたて}の地名が残ります。固館橋が柏尾川に今架かっています。

景政はその後大庭御厨を開発し拠点は大庭に移ったようで、頼朝の挙兵の時に、平家方として石橋山で戦った大庭景親も一族です。

頼朝が鎌倉幕府を開くと、村岡には各地からの鎌倉道が通り、北条氏のお寺も造られました。

村岡城は新田義貞の鎌倉攻めで本陣となったと云います。約 700 年前になります。目の前の洲崎の原野では丸一日で 65 度も斬合いが行われ、この時、村岡、藤沢、片瀬、腰越、十間坂などに火がかけられたと太平記に書かれています。

ここで藤沢という地名が出てきたのが、藤沢という地名の初見、初めでの文献といわれています。

御霊神社の北側に、この時の死者を葬ったといわれる塚がいくつかあり「八ツ嶋」と呼ばれていましたが、いま神戸製鋼となっています。そこで発掘された物は兜松に合祀されたといいいます。

室町時代の村岡郷は鶴岡八幡宮の管理地とされています。

北条早雲が小田原に入ると、その支配下となりました。今から 500 年前の事になります。三浦氏に備えて玉縄城が建設されると、村岡近辺には支えのため、二伝寺砦、高谷砦、御幣山砦が造られ、藤が岡中学の所の大塚山は狼煙台とされました。そして小田原北条氏の寺院が次々と造られました。

柄沢には、北条軍道と呼ばれる玉縄城への軍用道路も造られ、川名には公設の市場が開設され、柏尾川は物流の要路とされました。

ここで高谷砦とあるのが村岡城とされていますが、実は村岡城という呼び名は、東郷平八郎の碑が建てられた頃まではあまり使われなかった様に思われます。古代の遺跡は特に見つからず、南側に空堀の跡があると云われ、高谷砦の時の物かも分かりませんが、地誌としてよく引用される新編相模国風土記稿や皇国地誌などには平良文の居館跡とのみ書かれ村岡城の名は出て来ないようです。

秀吉の長期包囲戦に小田原は無血開城され、当地も戦火を免れ、徳川氏の支配地となりました。これで館・砦・城の時代は終わりとなりました。